



2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月10日

上場会社名 株式会社 安楽亭

上場取引所 東

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳 先

問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部 課長 (氏名) 町田 英之

TEL 048-859-0555

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	17,271	11.4	1,882		1,262		977	
2021年3月期第3四半期	19,491	66.6	1,009		916		1,225	

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 976百万円 (%) 2021年3月期第3四半期 1,222百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	457.11	
2021年3月期第3四半期	573.17	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	22,781	5,367	23.6
2021年3月期	23,487	4,391	18.7

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 5,367百万円 2021年3月期 4,391百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		0.00	0.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,539	3.8	1,775		600		306		143.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	2,139,434 株	2021年3月期	2,139,434 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	1,597 株	2021年3月期	1,388 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	2,137,900 株	2021年3月期3Q	2,138,047 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響に対して、国内のワクチン接種が進み新規感染者数も大幅に減少したことにより経済活動の正常化が期待されましたが、直近では新たな変異株による感染再拡大への懸念が強まっており、先行きは未だ不透明な状況となっております。

外食産業におきましては、9月末の緊急事態宣言等の解除及びその後のリバウンド防止措置期間の終了により店舗営業時間、アルコール提供等の制約がなくなって以降、客足が急速に回復傾向に入ったものの、世界的な感染拡大は依然として続いており、さらに食材価格や原油価格の高騰等による物価上昇の影響も強く受け、厳しい経営環境が続きました。

このような環境の下、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」の商品提供を堅持するとともに、引き続き店内の衛生管理を強化・徹底し、お客様に安心してご来店いただける環境づくりに注力してまいりました。また、メニューのリニューアルや季節のフェア開催を積極的に実施して外食の楽しさをアピールし、来店促進に努めました。9月から一部店舗にて開始しました、朝食サービスあるいは早い時間帯のランチの提供についても、各業態において展開を進めております。

さらに12月には、既存の「安楽亭」業態店舗に隣接して「ステーキのどん」業態の店舗を新規オープンするなど、グループ内の連携強化と活性化にも引き続き取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高172億71百万円（対前年同期比11.4%減）、営業損失18億82百万円（前年同期は営業損失10億9百万円）、経常利益12億62百万円（前年同期は経常損失9億16百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益9億77百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失12億25百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 安楽亭業態

安楽亭業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は168店舗であります。内訳は直営118店舗、暖簾12店舗、FC38店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、10月にアルコール提供制限が解除された時期に合わせた、生ビール無料券プレゼント付きの「和牛×生中フェア」、安楽亭がテレビのバラエティ番組にて紹介されたことを受けて「安楽亭の合格メニュー」のクーポン配信等、来店促進の企画を積極的に実施しました。また、年末にかけてのディナーや忘年会目的のご利用ニーズに高まりに応え、「冬のごちそういい肉フェア」「松阪牛フェア」「家族ディナー特典クーポン」等を実施するなど、お客様に外食の楽しさを実感していただけるような施策を積極的に展開してまいりました。メニュー施策としては、原材料高騰への対応や付加価値の向上等の視点から食べ放題メニュー及びグラントメニューの改定を実施し、社会的関心の高まりを受けて「プラントベースミート」（大豆ミート等）のメニューを初めて導入する等の試みも行っております。

以上の結果、安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は66億62百万円（対前年同期比11.4%減）となり、セグメント損失（営業損失）は5億76百万円（前年同期はセグメント利益22百万円）となりました。

② 七輪房業態

七輪房業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は28店舗であります。内訳は直営23店舗、暖簾2店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、食べ放題拡販のためのクーポンの配信、年末にかけてのディナーや忘年会目的のご利用ニーズに応える「冬の贅沢三昧セット」販売等、お客様に七輪房の魅力をお伝えするための施策に取り組んでまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は11億78百万円（対前年同期比13.8%減）となり、セグメント損失（営業損失）は1億36百万円（前年同期はセグメント損失11百万円）となりました。

③ アークミール

アークミール業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は直営142店舗であります。アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス（ステーキ）」、「donイタリアーノ（イタリアン）」を含んでおります。なお、当第3四半期連結会計期間において、12月23日に「ステーキのどん赤羽東口店」が新規オープンしております。

販売促進及び商品開発につきましては、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス」の主要各業態において、安楽亭業態同様に積極的に来店促進の施策を展開してまいりました。「欲ばりリブロインステーキフェア」(ステーキのどん)、「国産牛頬肉しゃぶしゃぶ」(どん亭)等の新メニュー販売のほか、アルコール提供制限が解除された時期に合わせた「やっぱり生ビールキャンペーン」(どん亭)、深夜時間帯の集客回復を図るための「ナイトク!キャンペーン」(ステーキのどん)等、多様なニーズに応じて収益確保を図る取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、アークミールの当第3四半期連結累計期間の売上高は92億37百万円(対前年同期比10.9%減)となり、セグメント損失(営業損失)は7億80百万円(前年同期はセグメント損失5億95百万円)となりました。

④ その他業態

その他業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は9店舗であります。内訳は直営5店舗、FC4店舗であります。なお、その他業態には、「えんらく(焼肉食べ放題)」、「からくに屋(焼肉)」、「花炎亭(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「アグリコ(イタリアン)」、「カフェビーンズ(喫茶)」、「安楽亭ベトナム(焼肉)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は1億93百万円(対前年同期比17.7%減)となり、セグメント損失(営業損失)は54百万円(前年同期はセグメント損失42百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ7億5百万円減少し、227億81百万円となりました。これは、現金及び預金の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ16億81百万円減少し、174億14百万円となりました。これは、未払消費税等の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ9億75百万円増加し、53億67百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等が要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2021年11月11日に公表いたしました「業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ」から変更しておりません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,322,001	4,438,410
受取手形及び売掛金	789,745	1,120,452
商品及び製品	494,748	700,209
仕掛品	655	2,450
原材料及び貯蔵品	916,385	1,133,592
前払費用	373,645	371,567
その他	565,915	405,006
貸倒引当金	△4,917	△4,917
流動資産合計	8,458,179	8,166,772
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,601,289	3,382,831
機械装置及び運搬具（純額）	113,956	86,340
工具、器具及び備品（純額）	302,326	480,568
土地	6,126,249	6,126,249
リース資産（純額）	185,118	140,481
建設仮勘定	7,439	5,043
有形固定資産合計	10,336,379	10,221,514
無形固定資産		
のれん	47,071	29,968
その他	492,474	513,450
無形固定資産合計	539,546	543,418
投資その他の資産		
投資有価証券	147,767	148,131
長期貸付金	9,874	9,168
長期前払費用	305,645	271,847
繰延税金資産	274,263	172,271
敷金及び保証金	3,408,210	3,242,928
その他	34,150	32,135
貸倒引当金	△26,762	△26,669
投資その他の資産合計	4,153,150	3,849,814
固定資産合計	15,029,076	14,614,747
資産合計	23,487,256	22,781,520

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	882,865	1,180,227
短期借入金	4,162,493	5,152,842
リース債務	76,901	63,023
割賦未払金	255,801	283,478
未払金	445,882	558,796
設備関係未払金	43,955	92,492
未払費用	1,670,920	1,067,697
未払法人税等	323,088	257,817
未払消費税等	1,099,700	52,945
賞与引当金	109,708	66,277
転貸損失引当金	13,297	12,863
店舗閉鎖損失引当金	47,866	—
資産除去債務	7,447	—
その他	963,586	486,479
流動負債合計	10,103,513	9,274,941
固定負債		
長期借入金	6,495,184	5,784,358
リース債務	204,870	163,699
長期割賦未払金	779,316	710,121
繰延税金負債	185,546	187,119
役員退職慰労引当金	114,602	126,086
転貸損失引当金	9,539	—
退職給付に係る負債	457,813	418,913
資産除去債務	400,255	388,907
その他	345,411	360,245
固定負債合計	8,992,539	8,139,452
負債合計	19,096,053	17,414,393
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	△1,281,067	△303,804
自己株式	△8,260	△8,943
株主資本合計	4,365,155	5,341,735
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,409	15,199
為替換算調整勘定	1,411	3,219
退職給付に係る調整累計額	8,226	6,971
その他の包括利益累計額合計	26,047	25,391
純資産合計	4,391,202	5,367,126
負債純資産合計	23,487,256	22,781,520

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	19,491,501	17,271,532
売上原価	7,010,193	6,685,208
売上総利益	12,481,307	10,586,324
販売費及び一般管理費	13,490,365	12,469,276
営業損失(△)	△1,009,057	△1,882,952
営業外収益		
受取利息	3,459	2,577
受取配当金	2,676	2,589
受取地代家賃	53,196	48,776
助成金収入	99,956	3,218,886
その他	37,879	32,954
営業外収益合計	197,169	3,305,784
営業外費用		
支払利息	73,010	89,307
支払手数料	—	48,500
賃貸収入原価	27,494	20,705
その他	3,666	1,608
営業外費用合計	104,171	160,120
経常利益又は経常損失(△)	△916,059	1,262,711
特別利益		
固定資産売却益	218	3,336
受取補償金	—	120,000
特別利益合計	218	123,336
特別損失		
固定資産除却損	28,697	5,038
減損損失	3,535	27,044
賃貸借契約解約損	140,255	11,557
特別損失合計	172,488	43,640
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△1,088,329	1,342,407
法人税、住民税及び事業税	71,865	262,446
法人税等調整額	65,269	102,696
法人税等合計	137,134	365,143
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,225,464	977,263
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,225,464	977,263

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,225,464	977,263
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,104	△1,209
為替換算調整勘定	△73	1,808
退職給付に係る調整額	△1,559	△1,254
その他の包括利益合計	2,472	△656
四半期包括利益	△1,222,991	976,607
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,222,991	976,607

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該変更による影響は軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
外部顧客への 売上高	7,517,071	1,366,333	10,372,872	235,223	19,491,501	19,491,501	—	19,491,501
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	7,517,071	1,366,333	10,372,872	235,223	19,491,501	19,491,501	—	19,491,501
セグメント利益 又は損失(△)	22,090	△11,957	△595,864	△42,207	△627,938	△627,938	△381,119	△1,009,057

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては3,207千円であります。

「アークミール」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては328千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
顧客との契約 から生じる収益	6,662,507	1,178,111	9,237,338	193,575	17,271,532	17,271,532	—	17,271,532
外部顧客への 売上高	6,662,507	1,178,111	9,237,338	193,575	17,271,532	17,271,532	—	17,271,532
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	6,662,507	1,178,111	9,237,338	193,575	17,271,532	17,271,532	—	17,271,532
セグメント損失 (△)	△576,936	△136,526	△780,276	△54,661	△1,548,401	△1,548,401	△334,550	△1,882,952

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(注) 3. 会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの損失の算定方法を同様に変更しております。当該変更が、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間に係る報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報に与える影響はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては2,274千円であります。

「アークミール」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては24,769千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。